

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311



教祖120年祭を目指し、
道の後継者の育成を念頭に邁進しよう。

立教165年「ごもおぢばがえり 「おやさ」と「よろこび」いっぱい ひのきしん」

海松ヶ岡分教会長 森本忠平

お道の年間行事の中でも、その参加者の人数に於て、指折りの大行事である真夏の「ごもおぢばがえり」。

近年26万人、27万人という参加者であるが、30万人を越えた年も何回があった。

我々の周辺では子供の数が年々減り続けるとともに、ごもおぢばがえりの人数も確実に減少を続けている。確かに10年前を思えば、半減以上の現実がある。..何とか一人でも多く..と、毎年懸命に募集に努めていくことに変わりはない。

さて、参加人数も大切な事であるが、もっと大切なことは無いだろうか?と考える。

我が教会の6月の月次祭のおつとめのあと、去る5月25日・26日と、青年会笠岡分会の自転車団参加に加わった若人たちを含めて、8人に話話しーをやつてもらった。

その最後の一人の話の中で、千葉の東京ディズニーランドの話があった。

今年春のはじめ頃、入園した子供さんが、自分の大切なものを、園内で失った。「落し物」の届けをうけた職員の人たちが、我が事

の様に、次から次と、大きい懸命に探し始めた。品物は見つからなかった。職員の人たちは、その子供さんをなぐさめ、あとで、届けられた時は必ず送らせて頂くからと、住所や、電話番号を書きとめた。

数日後、その子の家に品物をもったディズニーの職員の人を訪れ、「気の毒ですが、拾得物として届け出がありませんでした。これは、あなたのものとは違いますが、同じ物を持って参りましたので、これで辛抱して下さい。せつかく、おいで頂いたのに悲しい思いをされたことと思いますが、元気で毎日をお過ごし下さい。」と丁寧にやさしく声をかけて帰られたそうです。

この話を聞いた人の多くは、考えさせられた。私は、特にそうであった。..ひのきしんの精神..

..底なしの親切...など、私は、早くから教えられ、よく識っていたつもりの大切な御教えを、本気で考え、その様に、身に行つて来たであろうかと考えた時、背中汗が出るほど恥しく、申し訳なく、何もわからず、何も実践できていなかった自らの信心を省みずには居られなかった。

ごもおぢばがえりに多くの世間の子供さんたちをおぢばにさそい、教祖のおひざ近くに帰って頂いても、その子供さんの一人一人に、真実を戻し切つて、ほんとに喜び満足して頂ける心で、言

動で、お世話させて頂き、生涯忘れられぬ程の楽しさと、おぢば恋しさ、を与えられる育成会員であつただろうか?と、思い返す時、反省の念入であった。

私は、..道に世界あり...世界に道あり...と聞かされて来たが、今年のおぢばがえりは「一人でも多く...。」とおさそいするのは勿論であるが..世界に道あり...を実践して居られるディズニーランドの人々の心を思い、御教えをもう一度、素直に噛みしめて、本当の親心、真心を、自らに問いつつとめさせて頂くことに決めた。

他の人々にもその思いは芽生えていた様に、今思える。

募集は、昨年迄と同じ様に、近隣の学校の校門でのおさそい(声がけ)をメインとして、5つの小学校で行った。3校は登校時に。2校は下校時に。正門・裏門など、少くとも2ヶ所に立つて、本部からのカラーのチラシを手渡した。

今年は100枚程配つて、100枚ほど残った。例年100枚につき11人位の申込みという状態である。校門でのおさそいの他、昨年参加の子供さんの宅を訪ねる人、知り合いに電話をする人など、もあった。日が近づいて来た。7月15日、申込者は10人位であった。やはり少なかった。しかし今年は、大人数よりも、一人一人の子供さんへの優しい、行き届いた接し方話しかた、お世話取りに、心が向いていた。

出発の日。昨年より少し多くの子供さんが参加

して下さった。

世話係の大人が、続々と申し出てくれた。仕事の休みを取ってくれた人。土曜日の仕事を終って2日目の夕方出発して、おちばへかけつけてくれる若人たちもいた。83才と、75才の、「じいちゃん」も係員のTシャツを着てくれた。2人の乳幼児をつれて臨時列車に乗ってくれた母親もいた。私の長男は今年輸送掛に任命され、団体本部でつとめたので、次男夫婦が中心になって、計画から、準備・引率の全てをやってくれた。

係員に笑顔は絶えなかった。意見の食い違いのトラブルなど一度もなかった。子供さんたちは、2人組・5人組など、自然にグループが出来、和やかにこやかに、係員を手こずらせたのは、最初の夜、寝苦しい暑さで、仲々寝てくれなかった一夜だけであった。

けが人も、病人も、さいふや物を失う子もなかった。みんな仲良く、明るく、係の大人と友だちの様に、昼も夜もすこし続けた。係員は、子供さんたちを叱ることなく、満足させることに徹した。のべ22人が世話に当たってくれ、まるで、マンツーマンの様であったので、慾求不満の声やムードは、どの子にもなかった。

ありがたくて、ありがたくて心にくることもおちばがえりになった。8月17・18日のお泊り会に、大半の子が来てくれることになった。ディズニールランドを忘れぬお泊り会にしたいと思ってる。

少年ひのきしん隊に参加して

教祖殿まなびの三味線を

弥高山分教会 岡崎かおり

私が少年ひのきしん隊に参加することになった理由は、親に、本部の朝つとめのあとの教祖殿での手をどりまなび十一・十二下り目の三味線を岡山教区代表で出ることになったから天理に行きなさい、と言われたからです。

私は、最初少年ひのきしん隊に参加するのがいやでした。日焼けするし、朝起きるの早出し、めんどくさそうだしと、か思ってたからです。鼓笛隊も学校も同じ友達が、少年ひのきしん隊に参加するので、私も参加することにしました。

私は、天理に着いても、暑いとかだるいとか思っていました。けど、ひのきしんして

て、いろんな人に「ありがとう」とか「バイバイ」とか言ってもらえて、すこくうれしくて、少年ひのきしん隊のいろんな人たちとお話しても楽しくて、最初思ってた、暑いとかめんどくさいとか

がなくなってきました。

本部のおつとめは、八月一日にあつて、すこく緊張しましたが、おつとめをさせて頂いてよかったと思いました。本当は、おつとめが終わったら天理から家に帰るつもりだったのが、少年ひのきしん隊の楽しいところとかがたくさんわかって、八月一日で帰るのはなにか寂しいなと思ひ、八月五日の最終日まで残ることにしました。

私と友達は三班で、私達以外の女の子はみんな小学生で、三年生の子もいました。朝起きるの早出し、暑いし、大丈夫かなと思っていたけど、毎日みんなすこく元気にひのきしんをして、「楽しい?」と聞くと、みんな「来てよかった。」と

感激している姿がすこいと思いました。私が小学六年の頃、少年ひのきしん隊に参加した時には、私は暑いとかめんどくさいとかばっかり思ってた、早く帰りたいって思ってたからです。

楽しくすこいしていると、もう八月四日になり、お別れ会で泣いてる子とかもいて、私もすこく感動しました。連続歩調で大きな声を出すのはずかしかったし、朝起きるのが早くて疲れたり、日焼けもすこいしたけど、少年ひのきしん隊に参加して、本当によかったと思ひました。



少ひに参加して本当に良かった

雲東分教会 安部 里美

私は、今回初めて「少年ひのきしん隊」に参加させてもらいました。

最初は友達も出来ず、1週間ちゃんとやっていくのかという不安がありました。

でも、実際に少ひをやってみると、とてもたのしかったです。

とくにたのしかったのは、バレードに参加した事です。

1回目は、ピカピカ光る車みたいなのものからせてもらい、2回目は、旗をもって

あるきました。

1回目の時は、車みたいなのに乗りながらペンライトをふりました。

とってもたのしかったです。

2回目は、旗がおもくて大変でした。でも、どつどつと前をみてあげてよかったです。

それと、少ひでいちばん大変だったのは、お茶くみです。

私は最初お茶が好きなのにのめて、「こんなのフクだよ。」と心の中でおもっていたけどそれはおもいちがいでした。

「お茶いかがですかー。」と大きな声で叫んで



かっただと思いました。カウンセラーの人もとても

でも本当に今回少ひに参加して良かったと思います。

思っています。

たんじゃないか？など

まっただけみんな笑顔でやれたからよかったんじゃないか？など

のどがいたくなるし、ずっとたちっぱなしで足がいたくなったりしました。そのなかでも一番つらかったのは、裏方で、熱いお茶をしゃくをつかってさます仕事でした。ねつきがすぐくて汗もダラダラでてくるし、腕がいたくなりました。でも、そんなのがぶっとんでしまうのが、みんながいつてくれるこの一言でした。「ありがとう」この言葉です。なぜか、とてもいい気持ちになれました。少ひでの一番の思い出というところ、やはりあれか、あれだなと思います。

それは、交流会と行進「コンテスト」です。

交流会では、いろいろな国の人たちと一緒にたのしめて本当に良かったし、

行進「コンテスト」では、

順番が1番になり、

みんな緊張していた

のか、いきなりまち

がえたり、アクシデ

ントが発生してし

まっただけみんな笑

顔でやれたからよかつ

たんじゃないか？など

思っています。

でも本当に今回少ひに参加して良かったと思います。

やさしくておもしろいし、友達もたくさん出来てよかったです。それに両親にはこの『少年ひのきしん隊』に参加させてくれた事に本当に感謝しています。

つらくて、かえりたくもな

たけど、最終的にはかえりたく

なくなるべらいたのしかった

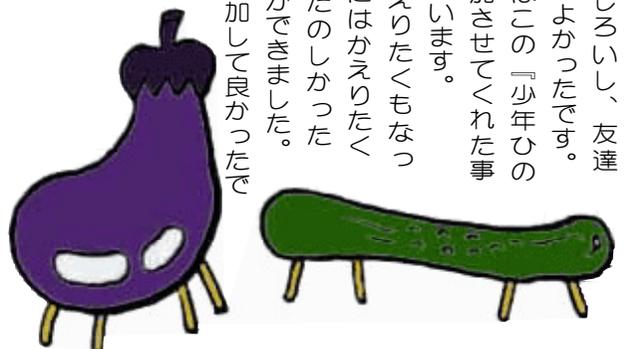
し、たくさん友達ができました。

本当に少ひに参加して良かったで

す。

ありがとう

ございました。



安部里美さん(中二)は未信者の子弟です。小学校の時にこどもおがばがえりに参加して、少ひ隊の姿が強烈に印象として残っていたようです。私共の三女と部活が一緒に、少ひ隊に参加する話から、「自分も是非参加してみたい」と両親を説得し、御両親が「信者でもないのに良いのか」と御相談に来会されました。おがばへお引き寄せ下さった教祖の親心にお応え出来るよう今後の丹精に努力したいと思えます。

三代

談話



身 辺 雑 感

陶山分教会 上原 順子

ガレージの天井近くの梁に巣をつくり、燕ひばりが、今年二度目の出産をした。二羽の雛の黄色い口が巣からのぞいていたが、過日一羽が落ちたのか落とされたのか、地面に居るとの事。毎日バードウォッチングを欠かさなかった会長の見通しと通報に、野菜ウォッチング専門の私も、さすがに無視できず見に行った。翼はばたがまだ充分にのびていないため、当人(?)は羽搏はばたいているつもりらしいが、二十センチ位しか浮上せず、それでも二・三メートルは勢いで移動する。餌をやるうとして近づくとその調子で逃げる。ふと見上げると、頭上の電線に親燕らしきのが止まって様子を窺っている。大家の真心が信用できぬかとつばやきながら、蛇にでも襲われないかと見守っていると、突如眼前を影が横切り、雛のそばをかすめて去った。口をあけたままの雛の横に「ナノ」の子がもがいている。巣の中とちがって親燕ものを絞れず、やりにくいのだらうが、いささか早すぎる巣立ちをした

子に、親としてやらねばならぬことを必死にやっているという印象だ。一方、巣に残った雛については、巣立ちを促している。どうもこちらは臆病らしく、なかなか巣から離れようとしなない。ある時は親や、先に生まれた兄弟達が揃って巣のまわりでエールを送るがダメ。無理もない、自分が本当に飛べるのかどうか分からないのに断崖絶壁から落ちねばならないのだから。しかし、いつまでも巣の中におく訳にはいかないとたまりかねた親は巣に入り、自分の身体でこの雛を押し出しはじめた。いつまでもこの家に居る訳にはいかなないので。つらくても世の中へ出て自分で食べていかなければ。親の脛かじりは、これで終り。などと云って聞かせているのではないか。この点、我が子可愛さの余り、苦勞をさせまいといつまでも手許に困って離そうとしない人間の親は、是非見習うべきだろう。

さて、地上で暮している雛の方は、頭上の親からの警告があるのか、あるいは本能からか、少しでも他より高い場所に止まり、時々位置を変えながら翼の訓練をしている。もしかすると親鳥は、生命力の強い方を先に巣から出させて自立させたのか、などと思いつつ、少々心を残して、「こどもおぢばがえり」に出発した。そして一週間。帰って見上げれば、どこにも燕の姿はなく彼等の巣がボツと残っているのみ。無事巣立ち完了とみた。かくて、春以来、糞害を避けて斜めに止めていた車もまっ直すになつた。

「私」の「心」

教会に集まって来るものを生かして

東福山分教会長 枝 廣 隆 文

消費は美德という時代があったが、今や「これが百円？」というものやジャパネットタカタの如きは金利手数料、送料不要。欲しい意志のままに簡単にすぐ手に入る時代となった。まだ使えるのにスマートでより便利な性能の良い型にと、あるが上にも買いたい求めれば前のものは不要となる。

現在、我が教会の自慢？は「倉庫は満杯」のところ、出直された主人の左官道具や息子が結婚して家を出たので不要になった大工道具や工具類を喜んで頂いたが納めるスペースが無い。ちょうどタイミング良く近くの工務店より風呂の薪にと頂いた木材で必要なものがすぐ取り出せる様、倉庫の棚を二段に作り変えたら、これもタイミング良く、ある用木の方が「いらにゃ捨てて(ほとんど古着)」と教会へ。昔不自由した方は捨てる勇氣がないのか、教会の者は不自由していると思つてか教会へ持つて行けば何とかしてくれると。加えて前会長夫人は良い顔してどんく引き受ける。現在では集まるというより押し寄せて来る感じである。「物は大切にしなされや、菜の葉一枚粗末

七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに日々の御守護はもろん四季折々の旬の御恵みをお与え下さるばかりでなく「月日にはせかいどう、ハミなわが子たすけたいとの心ばかりで」との親心のまに／＼身上や事情にしろしを見せこの道にお引き寄せ下さると共に心の立替をして下さり陽気ぐらしへとお導き下さいますことは誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日夜御礼を申し上げつつ「成つて来る理」に親心を思索し心の向きを陽気ぐらしへと立て替えるべく御恩報じの思いを重ね合わせて成人を目指したすけ一条の上に邁進させて頂いております

その中にも今日の吉日はたすけの元立てとして教祖御自らお教え下された「おつとめ」をつとめる定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心たすけ心も一汐に明るく陽気に勇んで座りつとめてをどりをつとめて七月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には暑さ厳しき中も厭わず今日の日を楽しみに寄り集いました理に繋がる道の子供達が相共にお歌に唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいます様お願い申し上げます

又今年も子供おぢば帰りが開催されますのでそれに向け一人でも多くの子供達に参加して貰うべく募集や鼓笛の練習に余念がありませんが何分にも暑いさ中でありますのでどうぞ事故・怪我や食中毒のないようにお連れ通りの程をお願い申し上げます 又同じく夏休みの間に子供達を対象におぢばでは学生生徒修養会高校の部が開催され大教会では英語講習会や野外練成会を開催致します これらの行事は道の子供としての自覚や成人を促しておりますので一層の参加呼び掛けをしていく所存でございます 更に又先日道の後継者練成会を開催させて頂きましたのが改めて成人へと導いて行く事の難しさと育成が急務であるとの思いを強くさせて頂きました この上は道の先達である私共が我流に走らず親神様教祖にお喜び頂けるしつかりとした信仰信念を持ち必ず道の後継者に育て上げるといふ決意で以つてたすけ一条に邁進して行く覚悟でございます

何卒親神様には皆の親孝心一筋の真実の心をお受け取り下さいまして今日のおつとめに神人和楽の一時をお現わし下さると共にたすけ一条に尚も自由の御守護を賜りまして後に続く子供達の更なる成人とお望み下さる陽気ぐらしの世の状へと一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

にしてくれな』というお言葉に、無い後髪を引かれながら、手を汚すのは何時もこの私だ。閉口するけれど良い事もある。調子の良いもので自分の欲しい物を持って来て下さった時には、その物がひととき輝いて見える。水準器、パイプレン子等。極め付けはパソコン一式である。飛び上がる程喜んだ。

ところで棚を整理する際、常に使用するものは取り出し易い一番良い場所に、何時か使つかも知れないものは、とりあえず奥の方へ(何れ捨てる運命かも)何時迄置いて居てもずつと寝て使われないものは処分するのが地球を汚すことになる。その点、八月大教会祭典後より開催するフリーマーケットは大変良い企画と思う。

諭達にお示し頂くように『飽くなき欲望は生命の母体である自然環境をも危うくして、……。慎みとたすけ合いの精神……。』が求められる。だから、まだ使えるものには使えなくなるまで使わせて頂き、あるが上にも求めないことが大切である。

余談だが、我々用木も何時か使えるものとおいて下さるのに何時迄も甘んじていると神様が棚おろしされる時に何時迄おいていても眠つていて使われないものとして処分されない様心掛けたいものである。お一恐。

「名月鑑賞の夕べ」に雅鶯会世出演

大教会創立後、間もなく、祭典楽として取り入れられた大教会の雅楽の歩みは、既に百年の道を辿る。この間、多くの信仰者の絶え間ない努力・研鑽によって、技量が磨かれ、教内・教外の多くの人々にその存在を知られる様になっている。

雅楽が、祭典の御用等にどまりず、にをいげ・布教の御用にも役立つ日の訪れることを、雅鶯会員が望んでくることは、言うを待たない。

一日も早く、公然と、世間に認められる日を念じ続けた、その想いに、ついに黎明が訪れた。

去る五月二十八日、雅鶯会は、笠岡市文化庁・笠岡市教育委員会と、他の多数の文化活動団体によって組織される「笠岡市文化連盟」の正式会員と認められ、連盟の一員となったのである。

谷内楽長以下、笠岡市在住者を中心に近在の会員二十八名が名簿に名を連ねた。

これは、一昨年春を皮切りに、一年間で三回、笠岡市の桜祭り・秋祭りに出演して、その見事な演奏が、市民の注目を浴びたからである。

このたび文化連盟の今年の一大行事の一つである「第二十五回 名月鑑賞の夕べ」(九月二十一日夕)に出演が決まり、当日のプログラムの最後を締めくくるプログラムに組み入れられた。

雅楽奉仕人たちの永年の夢が実現して、同志達の喜びは大きい。

句：とつしものはあらがたいもので、
「名月鑑賞の夕べ」に先立つ八月十日には、「笠岡市番町夏祭り」の舞台演奏の依頼も来た。

「番町」は旧笠岡の街並の二倍もある新しく町で、戸数は数千戸。

「雅鶯会」が世の表に出る日、立つ日を迎え、笠岡大教会の教友のよふばく・信者の方々の絶大な声援を期待し、お願い申し上げることも、関係者一同は、一層の精進に励むことをお誓いする。

(森本忠平記)

「名月鑑賞の夕べ」

- ・ 会 場 笠岡中央公民館 4階講堂
- ・ 9月21日 夕6時30分 開会 連盟会長・笠岡市長挨拶
夜9時 閉会まで プログラム16
雅楽は 8時50分から10分間。演奏会の最後を飾る。
- ・ 入場無料
- ・ 会場の直近に茶席が設けられ、茶道家による接待あり。
- ・ カラー印刷 案内状 200枚・ポスター5枚 大教会にあり。
- ・ 演奏曲目 平調音取・越殿楽・陪臚の2曲「車吹き」。
- ・ 使用楽器 箏(琴)、鞆鼓、太鼓、鉦鼓、笙、箏篳、龍笛。
- ・ 服 装 全員樂服

9月1日(日)

青年会笹岡分会総会

今、我々は道の信仰者として何をなすべきか。モノやカネにあふれた暮らしの中で徐々に失われつつある人間らしさ。今こそ真に信仰を求め、勇み立とうてはありませんか!!

開催日時 9月1日(日) 9:30 受付 / 10:00 おつとめまなび
12:00 式典 / 13:00 昼食 / 14:00 講話
14:30 神名流し、パンフレット配布
15:30 解散予定

参加対象 青年会員
携行品 おつとめ着、にをいがけのできる服装

9月1日(日)～ 8日(日)

全分会布教推進週間

10月27日(日)

第78回天理教青年会総会

人類のふるさと - ちば
人は真実のをやを慕い ちばへ帰る。

10月27日

天理教青年会総会は、われわれ青年会員がちばに集い
青年会長様よりお言葉を頂き、更なる実動を誓い合う場である。

教祖120年祭に向け

今、勢いをもって 成人への新たな一步を 踏み出すために、
さあ、あらまとうりょう そろってちばへ帰り集おう。

総会式典

日時 10月27日(日)午前10時

場所 本部中庭

前夜祭

日時 10月26日(土)夕づとめ後

場所 東西泉水プール前広場

提唱70周年 全教一斉 にをいがけデー 立教165年

- 主 旨** 今年の にをいがけデーは、提唱70周年の節目を迎え、全戸配布(4,000万軒)に向って、教会(布教所)は、にをいがけのできる よふぼくをどれだけ多く育てられるか、教区・支部(組・班)は、どれだけ多くの家庭にリーフレットを配布できるか、が目標です。
教会長が先頭に立って、よふぼく・信者・各会が一歩一歩、全戸配布の大きな渦を巻き起こすべく勇んでつとめさせて頂きましょう。
- 期 日** 9月 1日～30日 笠岡大教会布教強調月間
9月28日・29日・30日 一斉活動日
- 内 容** 戸別訪問、リーフレット・チラシを配布
- 報 告** 参加者数を支部へ報告、教会で参加者名簿の作成を

布教所長夫妻成人研修会

- テーマ** 奮起と実動
- 日 時** 9月22日(日) 午後5時30分 受付
～23日(月) 午後3時 閉講
- 場 所** 笠岡大教会
- 講 師** 田口美代子先生(岐美部属 越美錦分教会長)
- 内 容** 講話・質疑応答(田口先生)、感話(代表2人)、ねりあい(少人数制)
- 対 象** 布教所長夫妻
- 受講お供** 1,000円

こかん様に続く会

- 日 時** 平成14年9月22日(日) 午後4時半 受付
～23日(月) 午後2時 閉会
- 場 所** 笠岡大教会
- 内 容** 支部長様お話、にをいがけ、ひのきしん、会食
- 対 象** 中学3年生～高校3年生
- 参加御供** 500円

・原・稿・募・集・

内 容

*小随筆 ミニエッセイ(心に思い浮かぶままに書いた感想文)で、信仰的な内容であれば傾向は問いません。

- 例 ・教会長などの立場の上から、自分のなすべきこととして日頃思うこと
- ・一般のボランティア活動などに参加して思うこと
 - ・世上での出来事を通して、お道は何をなすべきか
 - ・組織としての自教会の運営の上で工夫をしていること
 - ・教理研究の上から思うこと など

*「今私のところでは」

教会・布教所の独自の活動などをご紹介ください

- 例 ・我が教会の名物
- ・祭典日直会のオリジナルメニュー など

*俳句・和歌・川柳(傾向は問いません)

*教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)。

題名・所属教会名・氏名を明記してください。

俳句等は1首からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿ください。

郵便 : 〒714-0066 笠岡市用之江377

FAX : 0865-66-1314

電子メール : kasaokazaki@rio.odn.ne.jp

なお、原稿はお返しいたしませんので、予めご了承ください。



今年の夏の祭典、こどもおぢがえりも期間中10日間を通して支障なく晴天の御守護を頂き、28万余の人々が参加し、携わっておや里へ帰り集った。

今回引率に携わって、暑い最中ではあったが、子供達の生き生きとした笑顔を見る度に、連れ帰ることができ本当に良かったなあと思うと同時に、これを機に少しでも多く親里の素晴らしさを伝える事ができたらそして、楽しませてあげなくてはと思う。

にをいげけに出させてもらうと、運良く話ができた時の会話の中で、小さい頃それに参加した時の思い出を殊更、好意を持って語ってくれる事がしばしばある。だからといって現在天理教を信仰していると言う訳ではないのだが・・・全く生まれこのかた何の身上事情も無く五体満足で、親にも信仰がないと言う家庭で有りながらも、友達誘いからこどもおぢがえりを通しておぢがへとお引き寄せ下さる。謂わば、この事がにをいげけ先のでき事なら早々に無縁と諦め、なかなかおぢがへとは話が行かないだろう。それがこどもおぢがえりだと、どうと言うことはない。喜び楽しんで親里に触れ、教えに触れる。

毎年恒例となったこどもおぢがえりも、来年で50年目を迎えると言う記事が天理時報に載っていた。その当初から換算すると、3世代に渡って受け継がれてきた行事になる。おさしずし・・・もう道というは、小さい時から心写さにならん。そこへ年取れてからどうもならん。世上へ心写し世上からどう渡りたら、この道付き難くい(33・11・16)と、また・・・(前文略)いろいろの道、一つく事情にて一般皆々開けてある。天の理であればこそ、万国まで一寸付け掛けてある。万国一体世界一体いずれ開いて見せる(37・6・29)。現在はどうであれ、理有ればお繋ぎ下さる。これからは先を楽しみに、勤めさせて頂きたいと願う。